

TOSHIBA

東芝パッケージエアコン〈天井カセット形〉

据付説明書



EB99825401-3

R32/R410A冷媒機種

〈室内ユニット〉

AIU-RP403H AIU-RP713H
AIU-RP453H AIU-RP803H
AIU-RP503H AIU-RP1123H
AIU-RP563H AIU-RP1403H
AIU-RP633H AIU-RP1603H

組合わせ室外機はカタログをご覧ください。

〈天井パネル：別売品〉

RBC-U41PG(W) (標準パネル)
RBC-U41PG(C) (標準パネル)
RBC-U41PG(N) (標準パネル)
RBC-U41PG(K) (標準パネル)

〈リモコン：別売品〉

RBC-AMSU51 (省エネneoリモコン)
RBC-ATX41 (ワイヤレスリモコン)
RBC-AXRU41U (ワイヤレスリモコン受信部)

お知らせ

- このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系R32/R410A冷媒を使用しています。
- 本説明書は室内ユニット側の据付工事方法を記載してあります。
- 室外機の据付は、室外機に付属している据付説明書に従ってください。
- この室内ユニットはR32/R410A冷媒対応機です。必ず対応する冷媒用の室外機と合わせてください。
- 天井パネルとリモコンは別売です。取付は、各別売品に付属している取付説明書に従ってください。
- ワイヤレスタイプは、ワイヤレスリモコン受信部（別売品）を標準パネルに取り付けてください。
(ワイヤレス操作するには、ワイヤレスリモコン受信部以外に、ワイヤレスリモコン（別売品）が必要になります。)
- リモコンの詳細設定内容は、リモコンに付属している据付説明書をご覧ください。

付属部品

部品名	個数	形状	用途	部品名	個数	形状	用途
取扱説明書	1	—	(お客様に必ず渡してください)	ワッシャ	4		ユニット吊り下げ用
据付説明書	1	本紙	(お客様に必ず渡してください)	偏心ワッシャ	4		ユニット吊り下げ用
据付用型紙	1	—	天井開口と本体位置確認用	ホースバンド	1		ドレンパイプ接続用
据付ゲージ	1		天井位置決め用(据付用型紙と一体)	フレキシブルホース	1		ドレン配管芯出し調整用
断熱パイプ	2		配管接続部断熱用	断熱材	1		ドレン接続部断熱用
結束バンド	4		断熱パイプ固定用	断熱材	1		配線接続口シール用

もくじ

安全上のご注意	2
エアコンの据付について	3
据付場所の選定	3
1.室内ユニットの据付	5
2.ドレン配管	6
3.冷媒配管	7
4.電気配線	8
5.応用制御	10
6.簡単機能設定	13
7.試運転	13
8.故障診断	14
9.室内ユニット設定確認	16
10.フロン排出抑制法による冷媒充填量記載のお願い	16

◇お客様への引き渡し

- 「取扱説明書」とこの「据付説明書」を必ずお客様に渡してください。
- 「取扱説明書」の内容を十分ご説明のうえ、引き渡しをお願いします。

日本国内専用品
Use only in Japan

安全上のご注意

- お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明



警告

“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(*1)を負うことが想定される内容”を示します。



注意

“取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷(*2)を負うことが想定されるか、または物的損害(*3)の発生が想定される内容”を示します。

- *1:重傷とは、失明やけが・やけど(高温・低温)・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療入院・長期の通院を要するものをさします。
*2:軽傷とは、治療入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
*3:物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明



禁止

○は、禁止(してはいけないこと)を示します。具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。



指示

●は、指示する行為の強制(必ずすること)を示します。具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。



注意

△は、注意を示します。具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

警告

- 据付は販売店、または専門業者に依頼する**
ご自分で据付工事を行い不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。
- 施工前に使用する冷媒種がR32もしくはR410Aであることを必ず確認する**
- 据付工事は、R32用もしくはR410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付説明書に従って確実に行う**
専用の配管部材を使用しなかったり、据付に不備があると破裂・けがの原因になり、また、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 冷媒充填・回収作業については、第一種フロン類充填回収業者に依頼する**
冷媒充填・回収作業には、専門の知識と技術が必要です。ご自分で作業を行い不備があると冷媒ガスが漏れる原因になります。
- 指定冷媒(R32/R410A)以外は使用(冷媒補充・入替え)しない**
室外機の装置銘板あるいはサービスポート近傍に明示している指定冷媒以外を使用した場合、機器の故障や破裂・けがなどの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実にを行う**
据付に不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 小部屋へ据え付ける場合は適用床面積を守り、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要**
適用床面積・限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。
万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると着火や酸欠事故の原因となります。
- 同時ツイン接続時、室内ユニットは同一部屋に据え付ける**
室内ユニットを小部屋に据え付けると、適用床面積が守れないことがあります。
- 据付は、重量に十分耐える所に確実にを行う**
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 台風などの強風・地震に備え、所定の据付工事を行う**
据付工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。
- 据付工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う**
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する**
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 電気工事(アース工事を含む)は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する**
電源回路容量不足や施工不備があると感電・火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する**
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず取り付ける**
法律によりD種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
- 据付や移設時、冷凍サイクル内に指定冷媒(R32/R410A)以外の空気などを混入させない**
空気などが混入すると冷媒サイクル内が異常高圧となり、破裂によりけがなどの原因になります。
- 設備工事完了後、フレア接続部を中心に冷媒ガスが漏れていないことを確認する**
漏れた冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける**
冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。

警告

- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する**
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。
- フロン類をみだりに大気中に放出しない**
フロン類を大気中に放出することは、法律により禁止されています。
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない**
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
- 漏電遮断器(過電流保護機能付き)が正しく取り付けられているか確認する**
漏電遮断器が正しく取り付けられていないと感電の原因になることがあります。
確認方法については、据付を行った販売店、または据付専門業者へお問い合わせください。



注意

- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける**
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因になることがあります。
- 据付作業のときは手袋(※)を着用する**
着用しないと部品などにより、けがをする原因になります。(※軍手などの厚手の手袋)
- ろう付け作業を行う場合は、冷媒の漏洩や残留がないか確認する**
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生したり、着火の原因になります。
- 据付や移設を行う場合、ガス・石油燃焼器・電気ヒーターなどの火元(着火源)となるものは十分遠ざける**
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生したり、着火の原因になります。
- ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないよう断熱する**
配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。
- 蒸気が多く発生するような場所、蒸気発生させる機器近傍に室内ユニットを設置しない**
ユニット内蔵部品が結露し、故障するおそれがあります。
- エアコンの吹出口は火災報知器より1.5m以上離して設置する**
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。



エアコンの据付について

このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系冷媒(R32/R410A)を採用しています。

- R32/R410A冷媒は圧力が高く、水分・酸化皮膜・油脂などの不純物の影響を受けやすいので、据付工事のときに水分・ゴミ・他の冷媒や冷凍機油などが冷凍サイクル内に混入しないよう注意が必要です。
- 据付には、下記のR32もしくはR410A冷媒用専用ツールが必要です。
- 接続配管はクリーンな新品の配管部材を使用し、水分・ゴミを混入させないよう施工してください。
- 既設配管を流用する場合は、室外機に付属の据付説明書に従ってください。

必要器材および取扱上の注意点

据付工事を行うために、下表に示す工具・器材を準備する必要があります。
これらの中で新規に準備する工具・器材は、必ず専用品としてください。

記号の説明 ◎:R32とR410Aの使い分けが必要 △:R32/R410A兼用

使用する機器	用途	工具・器材の使い分け
ゲージマニホールド	真空引き冷媒充填	△R32/R410A兼用
チャージングホース	および運転チェック	△R32/R410A兼用
チャージングシリンダー	冷媒充填	使用不可(冷媒充填ハカリによること)
ガス漏れ検知器	ガス漏れチェック	△R32/R410A兼用
真空ポンプ	真空乾燥	△R32/R410A兼用
逆流防止付き真空ポンプ	真空乾燥	△R32/R410A兼用
フレアツール	配管のフレア加工	△R32/R410A兼用
ベンダー	配管の曲げ加工	△R32/R410A兼用
冷媒回収機	冷媒の回収	△R32/R410A兼用
トルクレンチ	フレアナットの締め付け	△R32/R410A兼用
パイプカッター	配管の切断	△R32/R410A兼用
冷媒ポンベ	冷媒充填	◎R32専用/R410A専用 識別:冷媒名記載
溶接機・窒素ポンベ	配管の溶接	△R32/R410A兼用
冷媒充填ハカリ	冷媒充填	△R32/R410A兼用

冷媒配管について

このエアコンの据付には、R32もしくはR410A冷媒対応のフレア方式配管キットを使用してください。

- 配管キットを使用する場合は、必ず、配管肉厚がφ6.4、φ9.5、φ12.7は0.8mm、φ15.9は1.0mmのものを使用してください。配管肉厚が上記以下の薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。

*R410A冷媒用配管キットを使用する場合は、**冷媒種:2種、対応冷媒名:R410A**と表示されている配管を使用してください。(適用冷媒種は、配管の断熱材被覆にも約1mごとに記号化して表示してあります。この表示が「②」のものを使用してください。)

また、フレア加工・フレアナットもR32・R410A冷媒用のものが必要ですが、この表示のある冷媒配管キットでフレアナットが付き、フレア加工してあるものは、そのまま使用できます。

1. 一般の銅管を使用する場合

- 銅管はJIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220タイプで、内部の付着油量40mg/10m以下、配管肉厚はφ6.4、φ9.5、φ12.7は0.8mm、φ15.9は1.0mmのものを使用してください。
上記以外の薄肉配管は、絶対に使用しないでください。

2. フレアナットおよびフレア加工

- フレアナットはエアコン本体付属のもの、またはR32・R410A用を使用してください。
- フレア加工は7ページの「冷媒配管の接続」をご覧ください。

据付場所の選定

警告

可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない
万一ガスが漏れて室内ユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。



注意

- エアコンの吹出口は火災報知器より1.5m以上離して設置する
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。
- 蒸気が多く発生するような場所、蒸気が発生させる機器
近傍に室内ユニットを設置しない
ユニット内蔵部品が結露し、故障するおそれがあります。



室内ユニットは冷・温風がムラなく循環する場所を選んでください。
次のような場所は避けてください。

- 酸性またはアルカリ性雰囲気のある場所(温泉地帯・化学薬品工場・燃焼器の排気を吸込む場所・次亜塩素酸ナトリウムを噴霧する場所など)…熱交換器(アルミフィン・銅パイプ)などに腐食を起こすおそれがあります。
- 切削油などの機械油の立込める雰囲気のある場所…熱交換器の腐食・熱交換器目づまりによる霧の発生・フィルター目づまりによる性能低下および結露・プラスチック部品の破損・断熱材のはがれなどを起こすおそれがあります。
- 食用油煙が発生する場所(食用油を使用する厨房や焼肉・お好み焼き店など)…フィルター目づまりによる性能低下および結露・プラスチック部品の破損などを起こすおそれがあります。
- 吹き出しの気流を乱す換気口や照明器具などの障害物が近くにある場所(気流の乱れにより、能力低下や機器の停止のおそれがあります。)
- 電源に自家発電装置を使用している場所…電源周波数・電圧が変動し、エアコンが正常に動作しないことがあります。
- 金属粉などの粉塵が発生する場所には据え付けしないでください。金属粉などがエアコン内部に付着・堆積すると自然発熱することがあり、火災の原因になります。
- クレーン車・船舶など移動するもの
- 特殊用途(食品・動植物・精密機器・美術品の保存など)では使用しないこと。(保存物の品質などに損害のおそれがあります。)

- 高周波の発生する機器(インバーター機器・自家発電機・医療機器・通信機器)がある場所(エアコンの誤動作や制御の異常や、それら機器へのノイズによる弊害が生じるおそれがあります。)
- 据え付けた下に、ぬれては困るものがある場所(湿度80%以上のときやドレン口が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じるおそれがあります。)
- ワイヤレスタイプの場合、インバータータイプの蛍光灯がある部屋、また直射日光が当たる場所(ワイヤレスリモコンの信号を受け付けないことがあります。)
- 有機溶剤を使用している場所
- 液化炭酸冷却など化学プラントには使用できません。
- ドアまたは窓の近くで高湿度の外気と接するおそれのある場所(結露するおそれがあります。)
- 特殊なスプレーを頻繁に使用する場所
建物の金属部とエアコン金属部との電気絶縁は電気設備技術基準(省令第59条、基準の解釈第167条3項)に従ってください。
配管を壁に貫通させるときは、必ず下記の部品を使用してください。
幹旋先:東芝コンシューママーケティング(株)
(1)部品名:ウォールキャップ
型名:UWC-60(能力ランク:P63以下)
WC-75N(能力ランク:P71以上)
(2)部品名:貫通スリーブ
型名:NFP-60(能力ランク:P63以下)
NFP-75(能力ランク:P71以上)
室内ユニット下面から床まで1.8m以上離してください。

お願い

天井内の湿度が80%を超えと思われる場合には、室内ユニット本体の側面と上面に断熱材を貼り付けてください。(断熱材は、厚さ10mm以上のものを使用してください。)

据付場所の選定 (つづき)

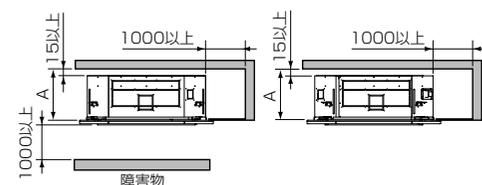
据付スペース

室内ユニットの据付およびサービスに必要なスペースを確保してください。

室内ユニットの天井と天井面との隙間は、15mm以上確保してください。

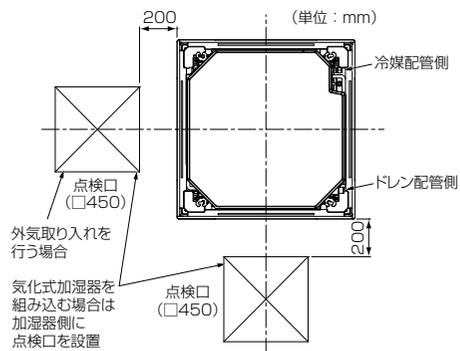
<据付スペース>

能力ランク	天井ふところ高さ：Amm
P40～P71形	271以上
P80～P160形	334以上



<加湿器(別売品)組み込みまたは外気取り入れを行う場合>

- 別売の加湿器を組み込むときは、組み込んだ側に必ず点検口を設置してください。
- 別売のフランジを使用し外気取り入れを行うときは、フランジ側に点検口を設置してください。



天井高さ

能力ランク	据付可能天井高さ
P40～P80形	3.8mまで
P112～P160形	4.6mまで

天井高さが下表の標準/4方向の高さを超える場合は、温風が床面まで届きにくくなるので、高天井設定または吹出方向の変更が必要になります。

また、別売品のフィルターを組み込む場合も高天井設定が必要になります。

高天井設定方法は、13ページの **高天井切換(フィルター設定)**

(ワイヤレスリモコン使用時は、10ページの **ワイヤレスリモコン使用の場合**) をご覧ください。

据付可能天井高さ一覧表

(単位：m)

能力ランク	P40～P63形			P71～P80形			P112～P160形			高天井設定 設定データ
	4方向	3方向	2方向	4方向	3方向	2方向	4方向	3方向	2方向	
標準(出荷時)	2.8	3.2	3.5	3.0	3.3	3.6	3.9	4.2	4.5	0
高天井①	3.2	3.5	3.8	3.3	3.5	3.8	4.2	4.4	4.6	1
高天井②	3.5	3.8	—	3.6	3.8	—	4.5	4.6	—	3

お願い

- 2方向・3方向吹出で使用する場合、天井の高さが標準より低いと直接強い風が当たりますので、天井の高さに合った設定に変更してください。
- 4方向吹出で高天井①、高天井③を使用した場合には、吹出温度低下によりドラフト感を感じやすくなります。
- P50クラス以下の機種で高天井対応する場合には、なるべく3方向または2方向吹出にしてご使用ください。

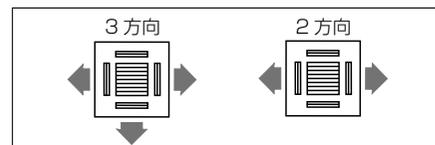
据付状況に応じて、リモコンのフィルターサイン(フィルター清掃のお知らせ)が点灯するまでの時間を変更できます。

また、据付場所や部屋の構造などでどうしても暖まりにくい場合には、暖房の内部設定温度を上げることができます。

設定方法は、13ページの **フィルターサイン** **暖房シフト** をご覧ください。

吹出方向

使用する部屋の形や据付位置に合わせて、下図のように吹出方向の数を選ぶことができます。

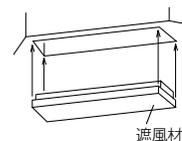


- 吹出方向を変更する場合は、遮風材キット(別売品)を使用して変更します。

遮風材キット(形名：TCB-BC1603U)

※取付時にワイヤードリモコンでの設定が必要になります。

吹出方向には制限がありますので、遮風材キットに付属の取付説明書に従ってください。



リモコン(別売品)の取付

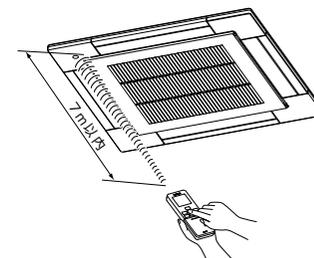
リモコンの取付方法は、リモコンに付属の取付説明書に従ってください。

- 直射日光の当たる所やストーブなどの近くに置いたり設置しないでください。

(ワイヤレスタイプ)

ワイヤレスリモコンの受信距離は約7m以内です。リモコンを操作する位置と据付場所を決めてください。

- 誤作動、リモコン受信不良防止のため、蛍光灯、赤外線が発生させる機器(電子黒板など)や直射日光の障害を受けない場所を選定してください。
- リモコン送信部および受信部の設定を切り換えることで、同じ部屋に設置の2台の室内ユニットを個々に操作できます。
- テレビやステレオなどの機器から1m以上離してください。(映像の乱れや雑音が入ることがあります。)



1 室内ユニットの据付

警告

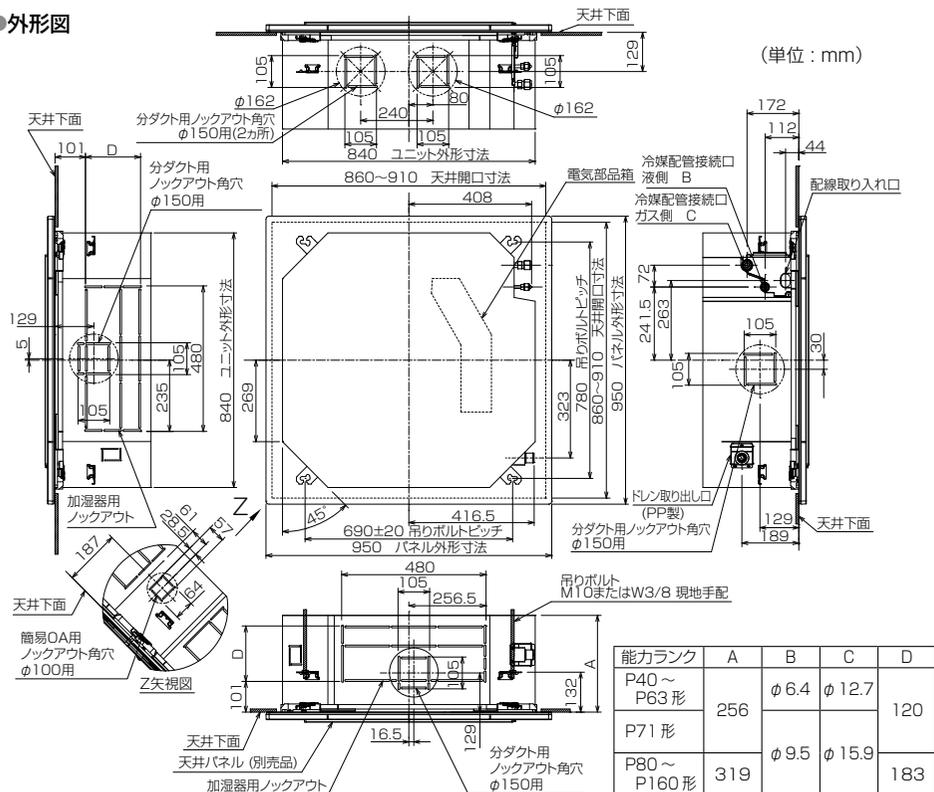
- 据付は、重量に十分耐える所に確実に行う
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 台風などの強風・地震に備え、所定の据付工事を行う
据付工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。
- 小部屋へ据え付ける場合は適用床面積を守り、万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要
適用床面積・限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。
万一、冷媒が漏れて限界濃度を超えると着火や酸欠事故の原因となります。
- 同時ツイン接続時、室内ユニットは同一部屋に据え付ける
室内ユニットを小部屋に据え付けると、適用床面積が守れないことがあります。



お願い

- 室内ユニットの損傷防止およびけが防止のため、次のことは必ず守って取り扱ってください。
- 梱包された室内ユニットの上に乗ったり、重量物を置いたりしないでください。
 - 室内ユニットの搬入は、なるべく梱包したままで行ってください。
やむをえず、開梱して搬入する場合は、当て布などで傷を付けないようにしてください。
 - 室内ユニットを移動させるときは、吊り金具（4カ所）を持ち、その他（冷媒配管・ドレン皿・発泡部品・樹脂部品）に力を加えないでください。
 - 運搬は2人以上で行い、包装用バンドを持っての荷扱いはしないでください。
 - 吊りボルトに防振材を入れる場合は、本体の振動が大きくなることを確認のうえご使用ください。

外形図



天井開口と吊りボルトの設置

- 室内ユニットは、吊り下げたあとの配管・配線工事を考慮して、据付位置と方向を決定してください。
- 室内ユニット据付位置決定後、天井の開口と吊りボルトの設置を行ってください。
- 天井開口寸法と吊りボルトピッチは、外形図および付属の据付用型紙に記載されています。
- 天井が既設の場合は、室内ユニットを吊り下げる前に配管・配線を接続する位置まで、ドレン配管・冷媒配管・室内外接続線・リモコン線を引いておいてください。

室内ユニット据付用の吊りボルトとナットは現地手配してください。

吊りボルト	M10またはW3/8	4本
ナット	M10またはW3/8	12本

付属の据付用型紙の使いかた

据付用型紙は梱包キャップの内側にあります。

<既設天井の場合>

天井開口穴と吊りボルトの位置出しにご使用ください。

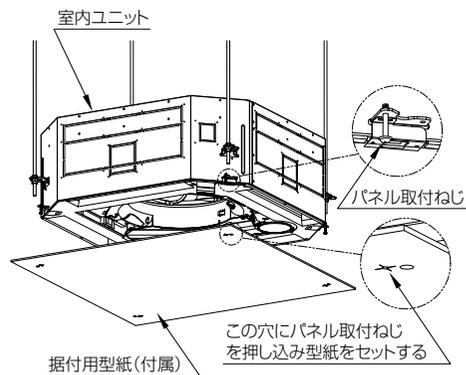
<新設天井の場合>

新設天井を張るときは開口穴の位置出しにご使用ください。

●吊りボルト設置後、室内ユニットを取り付けてください。

●室内ユニットのパネル取付ねじに据付用型紙の穴4カ所を押し込み固定してください。

●天井を張るとき、据付用型紙の外寸に沿って開口してください。



天井の処理

建築の構造により異なるので、詳しくは建築・内装業者とご相談ください。

天井板の取りはずし後の処理は、天井板の振動を防ぐための天井下地（骨組）の補強と、既設天井の水平度を正しく保つことが重要です。

●天井下地を切断撤去してください。

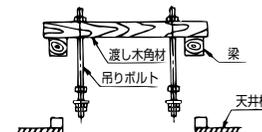
●天井下地切断面を補強し、天井板の端固定用の天井下地を追加してください。

吊りボルトの取付

吊りボルト（4本、現地手配）はM10またはW3/8を使用します。ピッチはユニット外形図の寸法に従い、既設構造に合わせて次の方法で取り付けてください。

木造の場合

梁の上に角材を渡して吊りボルトを設置します。



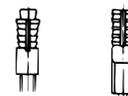
新設のコンクリートスラブの場合

インサート金具・埋込ボルトなどで設置します。



既設のコンクリートスラブの場合

ホールインアンカー・ホールインプラグ、またはホールインボルトを使用します。



鉄骨構造の場合

アングルをそのまま利用するか、新規に支持用アングルを設置します。



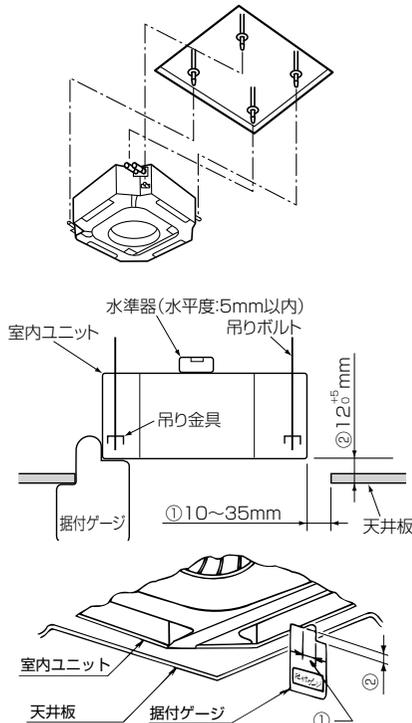
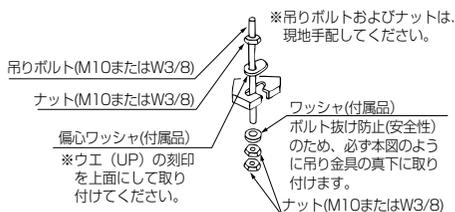
1 室内ユニットの据付 (つづき)

室内ユニットの設置

- 吊りボルトに、ナット (M10またはW3/8 : 現地手配) と付属のワッシャ (φ34) を付けてください。
- 室内ユニットの吊り金具のT溝にワッシャを上下に挟み、吊り下げます。
- 四辺が水平になっているか水準器で確認してください。(水平度 : 5mm以内)
- 据付用型紙から付属の据付ゲージを切り離してください。
- 据付ゲージを使用して、室内ユニットと天井開口穴の間関係① (10~35mm四辺共通) および吊り下げ高さ② (12±5mm : 四隅) を確認し、調整してください。(据付ゲージに使用方向が印刷されています。)

お願い

室内ユニットを据え付ける前に、ファンとベルマウスを固定しているテープを必ず取りはずしてください。テープを取りはずさないで運転すると、ファンモータが故障する場合があります。



天井パネル(別売品)の取付

天井パネルは配管・配線工事が終了してから取り付けます。天井パネルの取付は、パネルに付属の取付説明書に従ってください。室内ユニットと天井開口部の取付寸法が正しいか確認してから取り付けます。

お願い

天井パネルと天井面、および天井パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れが生じて、結露・水漏れの原因になります。天井パネルを取り付ける前に、天井パネルのアジャストコーナーキャップ(四隅)をはずしてから室内ユニットに取り付けてください。また、アジャストコーナーキャップを元に戻すときは、ツメが確実にハマっていることを確認してください。※ツメがハマっていない箇所があると水漏れの原因となります。

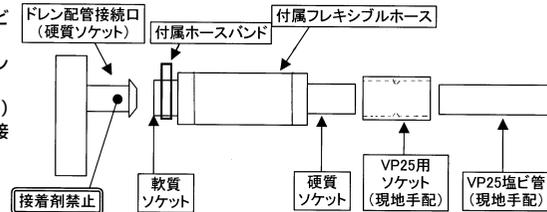
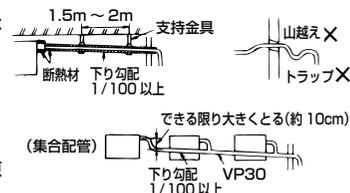
2 ドレン配管

注意

- ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないように断熱する配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。

お願い

- 室内のドレン配管の断熱を確実に行ってください。
- 室内ユニットとの接続部も必ず断熱してください。断熱が不完全になると結露の原因になります。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100以上) とし、途中で山越えやトラップを作らないでください。異常音の原因になります。
- ドレン配管の横引きは20m以下にしてください。配管が長い場合は、1.5~2m間隔で支持金具を設け、波打ちを防止してください。
- 集合配管は右図のように施工してください。
- エア抜き管は付けしないでください。ドレン水が吹き出し、水漏れの原因となります。
- ドレン配管との接続部に力を加えないよう注意してください。
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材 (パテなど) で埋めてください。
- 室内ユニットのドレン配管接続口に直接硬質塩ビ管を接続することはできません。ドレン配管接続口との接続には、必ず付属のフレキシブルホースを取り付けます。
- 室内ユニットのドレン配管接続口 (硬質ソケット) には、接着剤の使用はできません。ドレン配管接続口の破損や水漏れの原因になります。必ず付属のホースバンドで固定してください。



配管材料・断熱材およびサイズ

配管工事および断熱処理には下表の材料を現地手配してください。

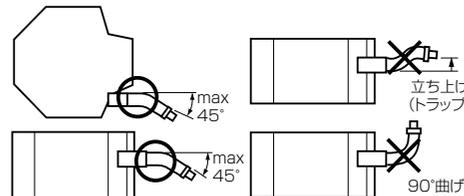
配管材料	硬質塩ビ管ソケット	VP25用
	硬質塩ビ管	VP25 (外径φ32mm)
断熱材	発泡ポリエチレンフォーム 厚さ10mm以上	

フレキシブルホースの接続

- 付属のフレキシブルホースの軟質側ソケットを室内ユニットのドレン配管接続口に突き当たるまで挿入します。
- 付属のホースバンドを配管接続口の端に合わせ、しっかり締めてください。

お願い

- 軟質側ソケットは付属のホースバンドで必ず固定し、締め位置を上側にしてください。
- 付属のフレキシブルホースは、折れ・詰まりが起こらないように角度は45°以下とし、使用してください。

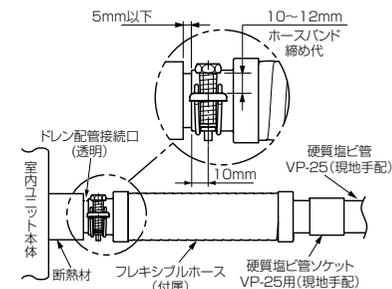


ドレン配管の接続

- 取り付けした付属のフレキシブルホースの硬質側ソケットに、硬質ソケット (現地手配) を接続します。
- 接続した硬質ソケットにドレン配管 (現地手配) を接続していきます。

お願い

- 硬質塩ビ管の接続には、塩ビ用接着剤を使用し、水漏れのないよう確実に行ってください。
- 接着剤の乾燥硬化 (接着剤の取扱説明書をご確認ください。) するまでに時間を要しますので、その間ドレン配管との接続部に力が加わらないようにしてください。

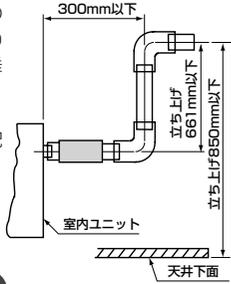


2 ドレン配管 (つづき)

ドレンアップ

ドレン配管に下り勾配が確保できないときは、ドレンアップができます。

- ドレンの配管の高さは、天井下面から850mm以下にしてください。
- ドレン配管は、室内ユニットのドレン配管接続口根元より300mm以下で取り出し、垂直に立ち上げてください。
- 垂直に立ち上げたあとは、すぐに下り勾配になるよう配管してください。



排水の確認

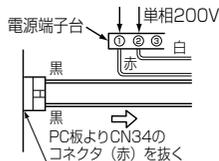
ドレン配管工事後の完了後に、排水が行われることと配管接続部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。暖房期に据付の場合も必ず実施してください。

電気配線工事が完了している場合

- パネルを取り付ける前に右図の方法で注水してから、冷房運転しながらドレン配管接続口（透明）から排水されているか確認し、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。

電気配線工事が完了していない場合

- 電気部品箱のPC板のコネクタ（CN34：赤）からフロートスイッチコネクタ（3P：赤）を抜いてください。（このとき電源が切れていることを必ず確認してください。）
- 電源端子台の①・②に単相200Vを接続します。（端子台の③には絶対に200Vを印加しないでください。PC板の故障の原因となります。）
- 右図の方法で注水してください。（注水量1500cc～2000cc）
- 電源を入れると、自動的にドレンポンプが運転しますので、ドレン配管接続口（透明）から排水されているか確認し、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。
- 排水・水漏れ確認後、電源を切りフロートスイッチコネクタをPC板の元の箇所（CN34）に付け、電気部品箱を元に戻します。



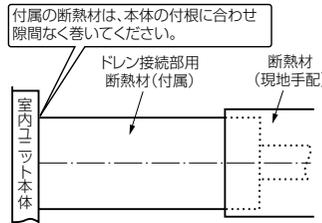
ホース先端を熱交とドレン皿の間に投入し、下向きに曲げる

石油ストーブ用ポンプまたは注水用ポリ容器

容器 水(1500cc～2000cc)

断熱処理

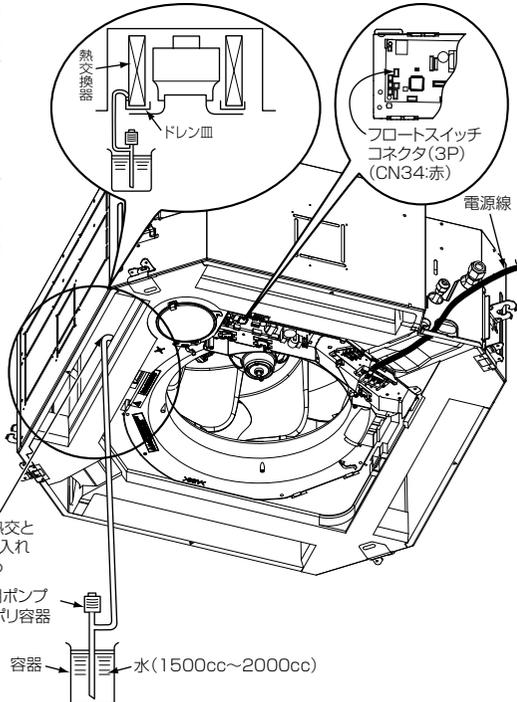
- 排水確認後、付属のドレン接続部用断熱材を室内ユニットのドレン配管接続口付根よりフレキシブルホースを被うように隙間なく巻いてください。
- 付属のドレン接続部用断熱材に重ねるようにして、ドレン配管に断熱材（現地手配）を隙間なく巻いてください。



※断熱材のスリット部および合わせ目は天井面を向くようにしてください。

注意

水を注入するときはゆっくりと注入する勢いよく注入すると、室内ユニットの内部に散布され機器の故障の原因となります。



3 冷媒配管

警告

- 据付工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 施工前に使用する冷媒種が R32 もしくは R410A であることを必ず確認する

お願い

- 冷媒配管が長い場合は、2.5～3m 間隔で支持金具を設け固定してください。配管を固定しないと異常音が発生する場合があります。
- フレアナットは必ず室内ユニット付属のもの、または R32 もしくは R410A 用のものを使用してください。
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材（パテなど）で埋めてください。

配管許容長さおよび許容落差

室外機により異なります。詳しくは室外機に付属の据付説明書をご覧ください。

配管材料およびサイズ

配管材料		空調用リン脱酸銅継目無管(C1220T-0)	
能カランク		P40～P63形	P71～P160形
配管サイズ (mm)	ガス側	φ 12.7	φ 15.9
	液側	φ 6.4	φ 9.5
	肉厚	6.4～12.7:0.8 15.9:1.0	

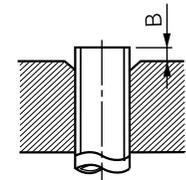
冷媒配管の接続

●フレア加工

- ①パイプカッターで配管を切断します。
バリは必ず取ってください。（ガス漏れの原因となります。）
- ②フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。
フレアナットは室内ユニット付属のもの、または R32 もしくは R410A 用のものをご使用ください。
R32 用もしくは R410A 用のフレアツールをおすすめしますが、R22 用のツールでも下表の通り銅管の出し代を調整すれば、使用できます。

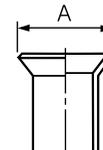
●フレア加工時の銅管出し代：B（単位：mm）

配管外径	リジッド（クラッチ式）の場合		インベリアル（ウイングナット）の場合
	R32もしくはR410A用ツール使用時	R22用ツール使用時	
6.4	0～0.5	1.0～1.5	1.5～2.0
9.5			2.0～2.5
12.7			
15.9			



●フレア部加工寸法：A（単位：mm）

配管外径	A ±0.4
6.4	9.1
9.5	13.2
12.7	16.6
15.9	19.7



フレア加工後、加工部に傷・切粉付着・変形・段差・扁平などが無いことを確認してください。

3 冷媒配管 (つづき)

- 封入ガスは大気圧しか封入されていないので、フレアナットをはずしても「プシュー」という音がしません異常ではありません。
- 室内ユニットの配管接続は必ずダブルスパナで行ってください。



ダブルスパナ作業

- フレアナット締付トルクは下表に従ってください。

配管外径(mm)	締付トルク(N・m)
6.4	14～18
9.5	34～42
12.7	49～61
15.9	68～82

フレア面への冷凍機油の塗布は行わないでください。

- フレア配管接続部の締付トルク
R32/R410Aは圧力が高いため、室内・室外の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締付トルクで確実に締め付けてください。接続に不備があるとガスリークだけでなく、冷凍サイクル故障の原因にもなります。

お願い

トルクをかけ過ぎると、据付条件によってはナットが割れる場合があります。

エアパージ

- 真空ポンプを使用して、室外機のバルブのチャージポートから真空引きを行います。
詳しくは室外機に付属の据付説明書をご覧ください。
- 室外機に封入された冷媒を使ったエアパージは絶対にしないでください。

お願い

チャージホースなどのツールは、R32 もしくは R410A 専用のものを使用してください。

冷媒追加

- 冷媒の追加は室外機に付属の据付説明書に従い、R32 もしくは R410A 冷媒を追加してください。
必ずハカリを使用して定量封入し、追加量は規定量を必ず守ってください。

お願い

- 冷媒の過剰封入や過少封入は、圧縮機の故障を引き起こす原因になります。
必ず規定量を守ってください。
- 作業実施者は室外機のサービスパネルに貼り付けてある銘板に配管長さや追加冷媒量を必ず記入してください。圧縮機および冷凍サイクル故障時の原因究明に必要です。

バルブを全開に

室外機のバルブを全開にします。弁棒の操作には六角レンチが必要です。

ガスリークチェック

リークディテクタや石けん水で配管接続部やバルブのキャップ部からガス漏れがないか確認します。

お願い

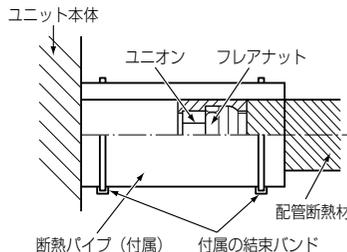
リークディテクタは、HFC 冷媒 (R32・R410A・R134a など) 専用のものを使用してください。

断熱処理

- 配管の断熱は液側とガス側の両方を別々に行います。
- ガス側配管の断熱材は必ず耐熱温度120℃以上のものを使用してください。
 - 室内ユニットの配管接続部の断熱は、付属の断熱材を用いて隙間なく確実に断熱処理してください。

お願い

断熱処理は室内ユニットの配管接続部付根まで露出がないよう確実に行ってください。(配管が露出していると、水漏れの原因となります。)
断熱材を巻くときはスリット部が天井面を向くように処理してください。



4 電気配線

警告

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず取り付ける
法律によりD種接地工事がが必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
- 電気工事 (アース工事を含む) は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する
電源回路容量不足や施工不備があると感電・火災の原因になります。
- 漏電遮断器 (過電流保護機能付き) が正しく取り付けられているか確認する
漏電遮断器が正しく取り付けられていないと感電の原因になることがあります。
確認方法については、据付を行った販売店、または据付専門業者へお問い合わせください。

お願い

- 電源配線は所轄の電力会社の規定および電気設備基準に従って行ってください。
- 室外機の電源は各室外機の据付説明書に従って記録してください。
- 制御配線用端子台 (リモコン線接続部など) には200V電源を絶対に接続しないでください。(故障します。)
- 電気配線は配管の高温部に接触しないようにしてください。被覆が溶け事故の原因となる場合があります。

電源仕様

配線およびリモコン線は現地手配してください。

電源仕様は下表に従ってください。容量が小さいと過熱・焼損などの発生原因となり危険です。
室外機の電源容量および電源線の仕様は、室外機に付属の据付説明書に従ってください。

能力ランク	電源 (50/60Hz)	アース線	室内外接続線	室内電源渡り線 (同時ツイン・トリプル接続時)
P40~P56形	三相 200V 単相 200V	φ1.6mm	φ1.6mm×3本	φ1.6mm×2本
P63形	三相 200V 単相 200V			
P71~P80形	三相 200V			
P80形	単相 200V	φ2.0mm		
P112~P160形	三相 200V			

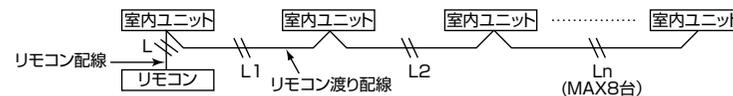
※記載の配線サイズは、最小サイズです。

リモコン配線とリモコン渡り配線

※ご使用のリモコンによって異なります。

RBC-AMSU51			
線種			
VCTF: 0.5mm ² ~2.0mm ² ×2			
リモコン線 (通信線) と AC100V/200V の配線を直接接触させたり、同一電線管に収めることはできません。ノイズなどにより制御系統に異常が生じるおそれがあります。			
リモコン配線とリモコン渡り配線の総配線長 (L1+L2+...+Ln)	1リモコン 500mまで	2リモコン 300mまで	ワイヤレスとの2リモコン 400mまで
リモコン渡り配線の総配線長 (L1+L2+...+Ln)	200mまで		

その他のリモコンについては、リモコン付属の据付説明書に従ってください。



4 電気配線 (つづき)

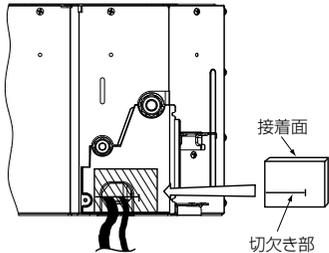
配線接続

お願い

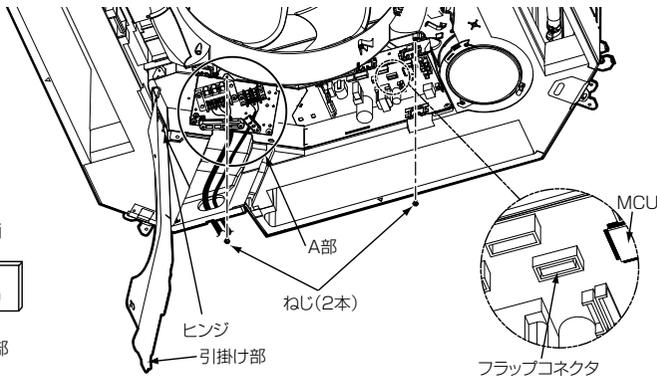
- 室内外交続線は、必ず端子番号を合わせて接続してください。接続を正しく行わないと故障の原因となります。
- 配線は、室内ユニットの配線接続口を必ず通してください。
- 電気部品箱をサービスなどで吊り下げる場合がありますので、配線には余裕(約100mm)を持たせてください。

- 室内外交続線は、外被覆が電気部品箱に収まるように皮ムキを行ってください。
- 電気部品箱のカバー取付ねじ(2本)をはずし、カバーを内側にスライドさせて引掛け部をはずします。(電気部品箱カバーは、ヒンジに引掛けたままとります。)
- 電気部品箱の端子台に室内外交続線とリモコン線を接続します。
- 端子台のねじはしっかりと締め、電気部品箱に付属のコードクランプで配線を固定してください。(端子台の接続部にテンションを掛けないようにしてください。)
- 付属の配線接続口シール用断熱材で、配線接続口をシールしてください。(シールしないと結露の原因となります。)
- 配線を挟まないようにし、電気部品箱のカバーを取り付けます。(天井パネルの配線後にカバーを取り付けてください。)

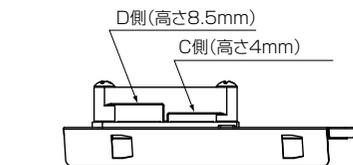
<配線接続口の断熱>



接着面
切欠き部



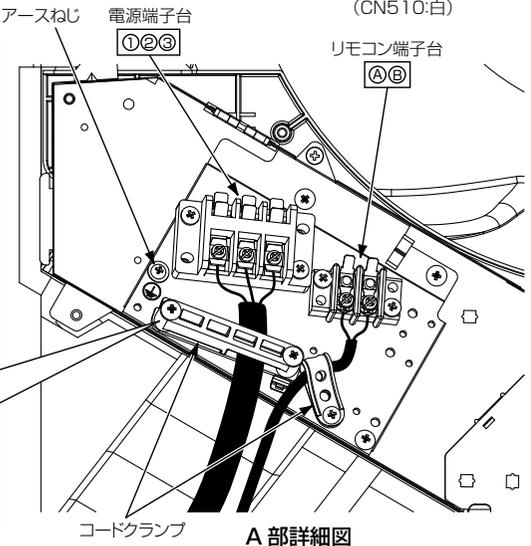
フラップコネクタ (CN510:白)



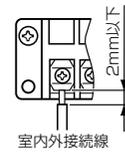
電源ケーブルは太さ・種類により下表を参考にクランプしてください。

※クランプの取付は左右逆に取り付けてもかまいません。同時ツイントリプル接続時はケーブルを2本並べてクランプしてください。

No	線の種類	仕様	クランプ位置
1	キャブタイヤケーブル	ヨリ線3.5mm ² (3芯)	D側
2	キャブタイヤケーブル	ヨリ線3.5mm ² (2芯)	D側
3	キャブタイヤケーブル	ヨリ線2.5mm ² (4芯)	D側
4	キャブタイヤケーブル	ヨリ線1.5mm ² (4芯)	C側
5	Fケーブル	単線φ1.6mm (3芯)	C側
6	Fケーブル	単線φ1.6mm (2芯)	C側

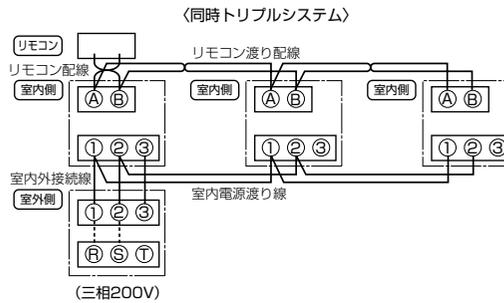
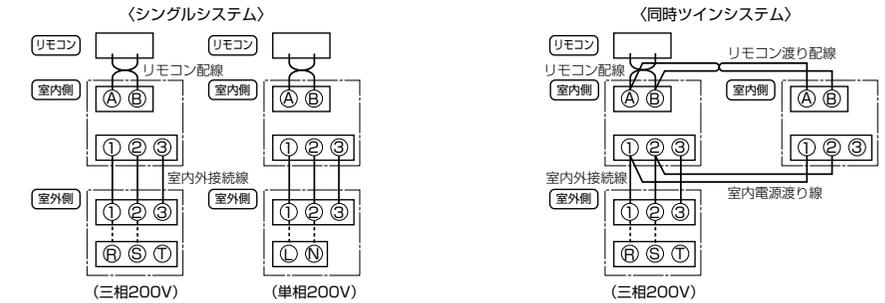


コードクランプ A部詳細図



端子台に接続する配線は、左図の寸法を確保してください。

●配線図



お願い

同時ツイントリプルシステムおよび同時トリプルシステムの場合は、室内外交続線および室内電源渡り線の末端を加工し、圧着端子を取り付けてください。

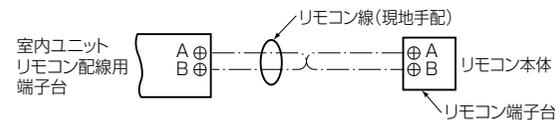
天井パネルの配線

天井パネルの取付説明書に従い、天井パネルから出ているコネクタ(20P:白)を電気部品箱のPC板のコネクタ(CN510:白)に接続します。

リモコンの配線

取付時には、リモコンの据付説明書もご覧ください。

●配線図



※配線は断面積0.5mm²~2mm²のものを使用します。

お願い

はじめてお使いのときは、電源が入ったあとリモコンが操作を受け付けるまで時間がかかりますが、故障ではありません。
〈据付後初回電源投入時〉 リモコン操作ができるまで約**5分**かかります。



〈2回目以降電源投入時〉 リモコン操作ができるまで約**1分**かかります。



出荷時は、すべて【標準（出荷時）】に設定されていますので、必要に応じて室内ユニットの設定を変更してください。
 設定変更は、省エネ neo リモコン（ワイヤードリモコン）の操作によって行います。

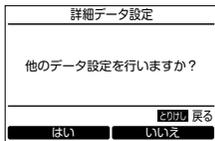
*ワイヤレスリモコン・サブリモコン・リモコンレスシステム（集中管理リモコンだけの場合）での設定変更はできませんので、省エネ neo リモコンを別途用意して取り付けてください。

応用制御設定の切替

設定切替の基本操作手順

エアコンの各種詳細データ設定を行うことができます。
 室内機停止中に設定を行います。（エアコンは必ず運転を停止させてください。）

手順	操作内容
1	『メニュー』ボタンを押してメニューを表示したあと、『メニュー』と『▼』ボタンを同時に4秒以上長押しして現地設定メニュー画面を表示します。
2	現地設定メニュー画面で『▲』『▼』を押して、『10. 詳細データ設定』を選んで 設定 『F2』を押します。 ① 「サービス用です。設定変更が必要ですか？」が表示されるので、変更を行う場合は はい 『F1』を押します。 ② “室内機”と“室外機”を選択する画面になった場合は“室内機”が選択された状態で 設定 『F2』を押します。 ③ 室内ユニットのファンとフラップが動作します。グループ接続を行っている場合は、選択している室内ユニットのファンとフラップが動作します。 ④ < 『F1』を押すと項目コード（DN）が白黒反転表示され、『▲』『▼』を押して項目コードの設定を行います。 ⑤ > 『F2』を押すとデータが白黒反転表示され、『▲』『▼』を押してデータの設定を行います。
3	設定する項目コード・データについては、室内ユニットの据付説明書・サービスガイドなどを参照してください。
4	項目コード（DN）のデータ設定終了後に『メニュー』を押すと、「他のデータ設定を行いますか？」が表示されます。他の項目コード（DN）のデータ設定を行う場合は はい 『F1』を押します。
5	他の設定を行わない場合は いいえ 『F2』を押します。“室内機”と“室外機”を選択する画面になった場合は『とりけし』を押します。“設定中”の画面がしばらく表示されたあと、現地設定メニュー画面に戻ります。 ● グループ接続時には、 いいえ 『F2』を押すとユニット選択画面が表示されます。ユニット選択画面で『とりけし』を押すと“設定中”の画面がしばらく表示されたあと、現地設定メニュー画面に戻ります。



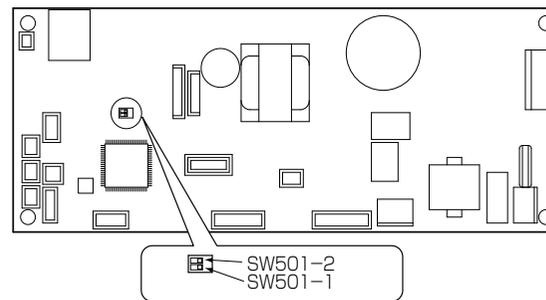
項目	内容	項目コード	設定データ		
			設定データ	0000	0001
換気扇	換気扇が接続されているときに設定します。	31	換気扇	なし (出荷時)	あり
リモコンセンサ	通常は室内ユニットの温度センサが室温を感知しますが、リモコン周辺の温度を感知させるときに設定します。	32	リモコンセンサ	使用しない (出荷時)	使用する
パワー連携	グループ制御時にパワー連携を使用する場合に設定します。連携するすべての室内ユニットについて設定してください。（冷暖自動・ドライ・送風運転では無効です。）	FB	パワー連携	使用しない (出荷時)	使用する
除霜連携	グループ制御時の除霜連携の有効/無効を切り換えます。（本機能に対応した室外機が接続されている場合のみ機能します。）	120	除霜連携	無効	有効 (出荷時)
除霜フラップ	除霜フラップ機能の有効/無効を切り換えます。	121	除霜フラップ	無効	有効 (出荷時)

お知らせ

- 「高天井切替」「フィルターサイン」「暖房シフト」「風よけフラップ」は「6. 簡単機能設定」より行ってください。
- スイングの種類を設定するには、取扱説明書の**スイングモード設定**をご覧ください。
- フラップロック（フラップ固定）を設定するには、取扱説明書の**フラップロック設定**をご覧ください。

ワイヤレスリモコン使用の場合

高天井および別売フィルターの設定は、下表に示すように室内マイコン基板上的のスイッチによる切替方法があります。
 ※ただし、一度切り換えますと、“1”、“3”、“6”の設定は自由にできますが、“0”に戻すには、スイッチを標準（出荷時）位置にして、別売ワイヤードリモコンから設定データ“0”へのデータ書換作業が必要となりますのでご注意ください。



SW501-1	OFF	ON	OFF	ON
SW501-2	OFF	OFF	ON	ON
設定データ (出荷時)	0	1	3	6

出荷時の設定に戻すには
 SW501-1、SW501-2ともOFFにしたあと、別売のワイヤードリモコンを接続し、13ページの**高天井切替（フィルター設定）**で、設定データを“0”にすることにより、出荷時の設定に戻ります。

別売部品を取り付ける場合

別売部品を取り付けるときに、ワイヤードリモコンによるデータ設定が必要な場合があります。
 必ず別売部品の取付説明書に従って、設定を行ってください。

5 応用制御 (つづき)

サービスモニター機能

(1) 『メニュー』 ボタンを押してメニューを表示したあと、『メニュー』と『▼』を同時に4秒以上長押しして現地設定メニュー画面を表示し、『▲』『▼』を押して **5. サービスモニター** を選んで **設定** 『F2』を押します。

『▲』『▼』で項目コードを変更してデータの確認を行います。

サービスモニター	
項目コード	データ
00	0024
▲▼ +- とりけし 戻る	

(2) 項目コードは下表を参照してください。

室内ユニットデータ	項目コード	データ名
	01	室温(リモコン)
	02	室内吸込温度(TA)
	03	室内熱交(コイル)温度(TCJ)
	04	室内熱交(コイル)温度(TC)
	F3	室内送風機積算運転時間(×1h)
	F8	室内吹出温度

室外機データ	項目コード	データ名
	60	室外熱交(コイル)温度(TE)
	61	外気温度(TO)
	62	圧縮機吐出温度(TD)
	63	圧縮機吸込温度(TS)
	65	ヒートシンク温度(THS)
	6A	運転電流(×1/10)
	6D	室外熱交(コイル)温度(TL)
	F1	圧縮機積算運転時間(×100h)

(3) 『とりけし』を押すと現地設定メニュー画面に戻ります。

グループ制御

同時ツイン・トリプルの場合

同時ツインシステムでは2台の室内ユニット、同時トリプルシステムでは3台の室内ユニットを同時にON/OFF運転できます。

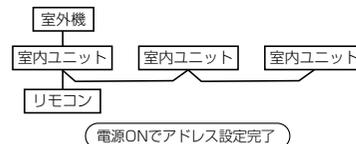
- 配線手順および配線は、「4.電気配線」に従って行ってください。
- 電源投入時に自動アドレス設定に入り、約3分後にアドレス設定中を示す「設定中」の表示が、表示部に点滅します。自動アドレス設定中は、リモコン操作を受け付けません。

自動アドレス終了までの所要時間は約5分です。

〈同時ツインシステム〉



〈同時トリプルシステム〉



複数台システムのグループ制御の場合

リモコン1個で最大8台までグループ制御できます。

- 個々の系統(同一冷媒系統)システムの配線手順および配線は、「4.電気配線」に従って行ってください。
- 系統間の配線は次の手順で行います。リモコンを接続した室内ユニットのリモコン端子台(A・B)から他の室内ユニットのリモコン端子台(A・B)に、リモコン渡り配線をそれぞれに渡らせて接続します。
- 電源投入時に自動アドレス設定に入り、約3分後にアドレス設定中を示す「設定中」の表示が表示部に点滅します。自動アドレス設定中は、リモコン操作を受け付けません。

自動アドレス終了までの所要時間は約5分です。

〈シングルシステムのグループ制御〉



注意

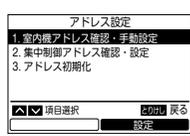
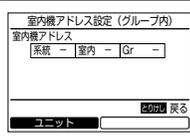
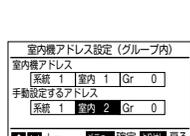
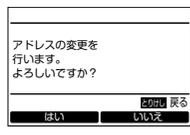
グループ制御のシステム構成によっては、自動アドレス設定後に手動によるアドレス変更を行う必要があります。

- アドレス変更が必要なシステム構成は、複数台の同時ツイン・トリプルシステムが1つのリモコンでグループ制御されている複合システムの場合です。(12ページ参照)

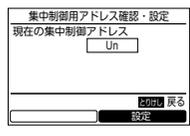
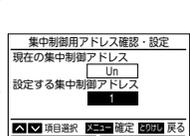
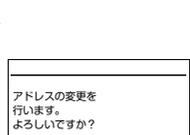
手動アドレス設定の操作手順

室内ユニットのアドレスは、電源投入時に自動で設定されますが、複合システムでは手動操作でアドレス変更が必要な場合があります。室内ユニットのシステムアドレス・室内アドレス・グループアドレスをリモコン上に表示し、該当する室内機のファン・フラップを動作させてアドレスと室内機の関係を確認し、必要場合は手動でアドレスの変更をしてください。室内機停止中に設定を行います。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)

アドレス確認・設定

手順	操作内容
①	現地設定メニューの 4.アドレス設定 から 1.室内機アドレス確認・手動設定 を選んで 設定 [F2] を押します。 
②	最初にグループ全体の室内ユニットのファンとフラップが動作します。アドレスは「-」が表示されます。 
③	ユニット を押すごとに、グループ全体→親機→子機 1...→親機→子機 1...の順に表示されます。 ● 該当する室内機のファンとフラップが動作します。 
④	手動で変更するユニットを選択して 設定 [F2] を押すと設定画面を表示します。 ● カーソル [F2] で白黒反転表示を移動させ、[△][▽] でアドレスを設定します。 
⑤	すべての室内ユニットの手動アドレス設定が終了したら『メニュー』を押すと変更確認画面が表示されます。 はい [F1] を押すと変更を実施します。 ● データ変更中は“設定中”を表示します。 

集中制御用アドレス確認・設定

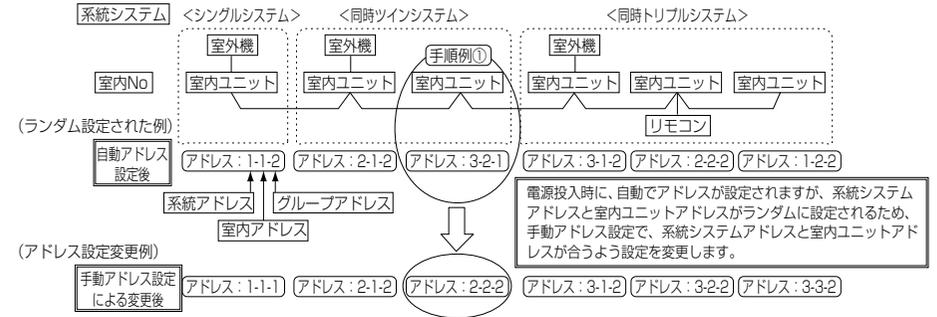
手順	操作内容
①	現地設定メニューの 4.アドレス設定 から 2.集中制御用アドレス確認・設定 を選んで 設定 [F2] を押します。 
②	室内ユニットの現在アドレスが表示されます。 ● 工場出荷時は「Un」です。 
③	設定 [F2] を押し、[△][▽] を押して設定します。 
④	『メニュー』で確定し、確認画面で はい [F1] を押すと変更を実施します。 ● データ変更中は“設定中”を表示します。 

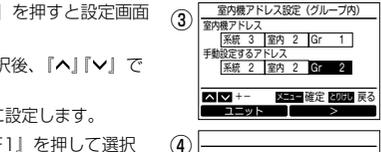
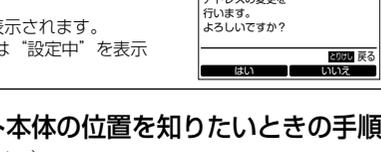
グループ接続を行う場合のお願い

- 4方向天井とそれ以外の室内ユニットでグループ接続を行う場合は、4方向天井を室内ユニットを親機に設定してください。
- オートグリル付室内ユニットとそれ以外の室内ユニットでグループ接続を行う場合は、オートグリル付室内ユニットを親機に設定してください。

<手順例> 手動アドレス設定 (複合システムでのグループ制御)

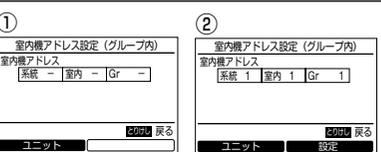
室内機停止中に設定を行います。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)



手順	操作内容
1	現地設定メニューの 4.アドレス設定 から 1.室内機アドレス確認・手動設定 を選んで 設定 [F2] を押します。 
2	①が表示され、グループ内すべての室内ユニットファンとフラップが動作します。 ● ①で ユニット [F1] を押してアドレス変更を行います。全体→親機→子機 1...の順に表示します。 ● ②が表示され、選択している室内ユニットのファンとフラップが動作し、他のユニットは停止します。 
3	②でアドレス変更を行う室内ユニットを選択し 設定 [F2] を押すと設定画面を表示します。 ● カーソル [F2] で白黒反転表示を移動させ、 系統 を選択後、[△][▽] でシステムアドレスを“2”に設定します。 ● 同様の手順で室内アドレスを“2”に、グループアドレスを“2”に設定します。 ● 他の室内ユニットのアドレス変更を行う場合は ユニット [F1] を押して選択し、同様の手順で設定を行います。 ● 各アドレス設定終了後『メニュー』を押すと変更確認画面④が表示されます。 はい [F1] を押すと変更を実施します。データ変更中は“設定中”を表示します。 

室内ユニットのNo. は分かるが、その室内ユニット本体の位置を知りたいときの手順

室内機停止中に設定を行います。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)

手順	操作内容
1	現地設定メニューの 4.アドレス設定 から 1.室内機アドレス確認・手動設定 を選んで 設定 [F2] を押します。 
2	①が表示され、グループ内すべての室内ユニットファンとフラップが動作します。 ● ①で ユニット [F1] を押してアドレス変更を行います。全体→親機→子機 1...の順に表示します。 ● ②が表示され、選択している室内ユニットのファンとフラップが動作し、他のユニットは停止するので、室内機の位置を確認できます。 ● 確認後は『とりけし』を押すとアドレス設定に戻ります。 

6 簡単機能設定

室内ユニット停止中にエアコンの各種データ設定ができます。(エアコンは必ず運転を停止させてください。)

手順	操作内容
1	<p>現地設定メニュー画面で「▲」「▼」を押して 9. 簡単機能設定 を選んで 設定 「F2」を押します。</p> <p>●グループ接続を行っている場合は、選択している室内ユニットのファンとフラップが動作します。</p> <p>● ← 「F1」 → 「F2」 で ● を移動させて設定を行います。選択されている方に ● が表示されます。</p> <p>● 温度- 「F1」 温度+ 「F2」 で設定を行います。</p>



高天井切替(フィルター設定)

高天井据付・高性能フィルター組込時などの風量切替の設定を行います。

設定	0	1	3	6
高天井	--	高天井①	高天井③	--
フィルター	標準フィルター (出荷時)	オイルガードフィルター 超ロングライフフィルター 光再生脱臭フィルター	高性能フィルター (65%) 高性能フィルター (90%)	デオドラントフィルター

高天井設定は、4ページの「据付可能天井高さ一覧表」より選択してください。

フィルターサイン

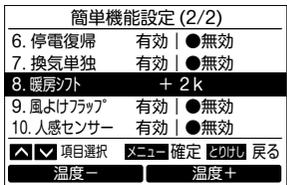
据付状況に応じてフィルターサインが点灯するまでの時間を変更することができます。

設定	0	1	2	3	4
フィルターサイン点灯時間	なし	150H	2500H (出荷時)	5000H	10000H

暖房シフト

暖房効果をよりよくするために暖房の内部設定温度を上げることができます。

- **温度-** と **温度+** でシフトする温度を設定できます。(出荷時の設定は「+2k」ですが「+0k(シフトなし)」から「+6k」まで設定できます。)
- シフト温度を設定し確定するには「メニュー」を押します。変更が確定されて現地設定画面に戻ります。「とりけし」を押したときは、変更は行われず、変更前の状態で現地設定メニュー画面に戻ります。)



風よけフラップ

冷房時のフラップ位置を天井汚れ軽減位置から冷気落ち抑制位置へ変更するときには「有効」に設定します。

風よけフラップ	内容
有効	風よけフラップポジション (冷気落ち抑制風向)
無効	スマッジング軽減ポジション (天井汚れ軽減風向) (出荷時)

7 試運転

試運転の前に

- 電源を入れる前に、次のことを行ってください。
 - (1) 電源端子台とアース間を500Vメーターで計って1MΩ以上あることを確認します。1MΩ未満のときは運転しないでください。
 - (2) 室外機のバルブが全開しているか確認してください。

- 起動時の圧縮機保護のために、電源を入れ12時間以上通電してください。
- 電磁接触器を押して強制的に試運転することは絶対にやめてください。(保護装置が作動しないため大変危険です。)

試運転の方法

リモコンを使用して、通常操作で運転確認を行ってください。運転の手順は、付属の取扱説明書に従ってください。室温がサーモOFFするような条件では、下の手順で強制試運転ができます。強制試運転は、連続運転を防止するため、運転時間が60分を経過すると試運転を解除し、通常運転に戻ります。

注) 強制試運転は、機器に無理が掛かりますので、試運転以外では使用しないでください。

ワイヤードリモコンの場合

手順	操作内容
1	<p>現地設定メニュー画面で「▲」「▼」を押して 1. 試運転 を選んで 設定 「F2」を押します。</p> <p>● はい 「F1」を押すと、試運転モードが設定され、現地設定メニュー画面に戻ります。「とりけし」を2回押すと右の画面②の状態になります。</p>
2	<p>● 運転/停止 で運転を開始すると試運転モードでは右の画面①の表示になります。(停止中は画面②)</p> <p>● “冷房”または“暖房”モードで試運転を行ってください。</p> <p>● 試運転モード中は温度設定ができません。</p> <p>● 点検コード表示は通常通り行います。</p>
3	<p>試運転を確認したら、現地設定メニュー画面で「▲」「▼」を押して 1. 試運転 を選んで 設定 「F2」を押すと画面③が表示されます。</p> <p>● はい 「F1」を押すと試運転モードは終了し、通常運転を行います。</p>

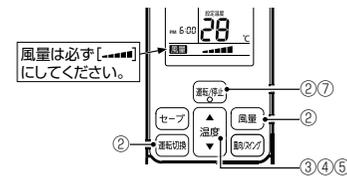


● 試運転開始から60分経過後に試運転は停止し、簡易/詳細画面に戻ります。

ワイヤレスリモコンの場合

手順	操作内容
①	エアコンの電源を投入してください。
②	据付後初回電源投入時は5分間、2回目以降電源投入時は1分間は運転操作を受け付けません。所定時間経過後に試運転を実施してください。
③	リモコンの「運転/停止」ボタンを押し、「運転切換」ボタンで運転モードを「冷房」か「暖房」に、「風量」ボタンで風量を「 」にしてください。
④	冷房試運転の場合 「温度」ボタンで「18℃」にしてください。 暖房試運転の場合 「温度」ボタンで「29℃」にしてください。
⑤	“ピッ”という受信音確認後直ちに、「温度」ボタンを押して「19℃」にしてください。 “ピッ”という受信音確認後直ちに、「温度」ボタンを押して「28℃」にしてください。
⑥	さらに手順④→⑤→④→⑤を実施してください。約10秒程度でワイヤレス受信部の表示ランプ「運転」(緑)・「タイマー」(緑)・「準備中」(橙)がすべて点滅し、運転します。もしランプが点滅しない場合には②以降の操作をやり直してください。
⑦	試運転を確認したら、「運転/停止」ボタンを押して運転を停止してください。

＜ワイヤレスリモコンからの試運転操作の概要＞
冷房試運転：運転→18℃→19℃→18℃→19℃→18℃→19℃→18℃→19℃→停止
暖房試運転：運転→29℃→28℃→29℃→28℃→29℃→28℃→29℃→28℃→停止



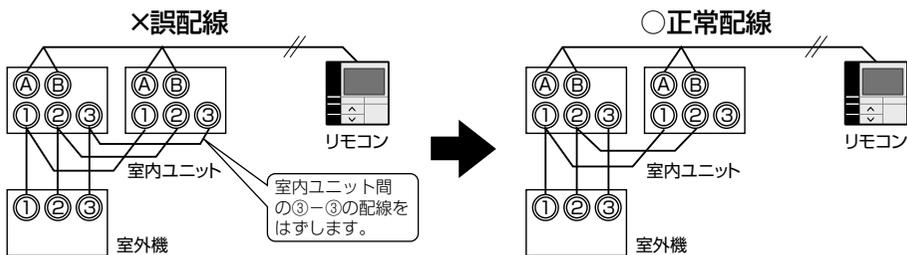
7 試運転 (つづき)

●同時ツイン・トリプルシステム (複数の室内機に対し室外機が1台の場合) で次のいずれかの症状により動作しないときの対処方法

- ・点検コード「E04,E18」が発生したとき
 - ・点検コードが表示されず室外機が運転しないとき
- 室内ユニット間配線を誤って①-①、②-②、③-③と3本結線した場合に運転できなくなります。

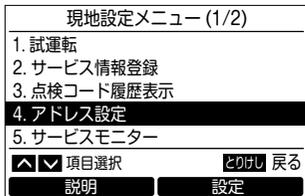
対処方法

(1) 室内ユニット間の配線を正しく接続し直す。

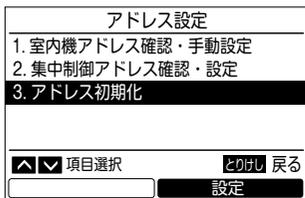


(2) アドレスの初期化

- ・現地設定メニューからアドレス設定を選択する。



- ・アドレス初期化を選択する。



8 故障診断

確認と点検

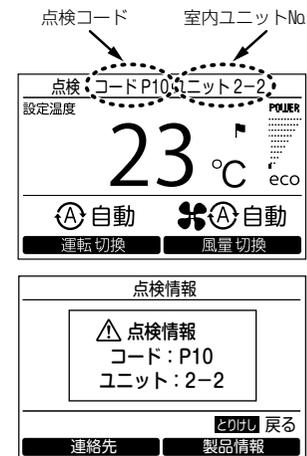
- (1) リモコン表示部に点検コードが表示されず、室外機が運転しない場合は、最初に左の **対処方法** 室内ユニット間の配線をご確認ください。
- (2) エアコンに不具合が発生した場合、リモコン表示部に点検コードと室内ユニットNoが点滅表示されます。

* 点検コードは運転中のみ表示されます。

点検コードと室内ユニットNoが表示されているときに「とりけし」を押すと、点検情報画面が表示されます。

点検情報画面で

- **連絡先** 「F1」を押すと、連絡先が表示されます。
- **製品情報** 「F2」を押すと、製品の形名と製造番号が表示されます。



故障履歴の確認

過去10件の点検コード・発生ユニット・発生日時を表示します。

手順	操作内容
①	<p>現地設定メニュー画面で「^」「v」を押して 3. 点検コード履歴表示 を選んで 設定 「F2」を押します。</p> <p>点検コード履歴データは、10件分の履歴が表示されます。 ※ 10件を越す場合は、古いデータ順に自動消去されます。</p> <p>● 同じ点検コードが繰り返し発生している場合は、一番最初に発生した日時を表示します。</p>

リモコン故障履歴データの消去

手順	操作内容
①	点検コード履歴表示画面表示中に 履歴消去 「F2」を押します。
②	<p>「点検コード履歴をすべて消去します よろしいですか?」が表示されるので はい 「F1」を押します。</p> <p>● 2 リモコンで使用している場合、それぞれのリモコンで履歴の消去を行ってください。</p>

8 故障診断 (つづき)

●点検コードと点検箇所

ワイヤードリコン表示部	ワイヤレスリモコン受信部表示ランプ	代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコンの状態
表示	赤緑 点滅	点滅			
C15	● ● ●	同時	室内	蓄熱ユニット異常	停止
E01	○ ● ●		リモコン	リモコン親なし リモコン通信異常	*
E02	○ ● ●		リモコン	リモコン送信不良	*
E03	○ ● ●		室内	室内リモコン間 定期通信エラー	自動復帰
E04	● ● ●		室内	室内外シリアル異常 IPDU-CDB間通信異常	自動復帰
E08	○ ● ●		室内	室内アドレス重複 ☆	自動復帰
E09	○ ● ●		リモコン	リモコン親重複	*
E10	○ ● ●		室内	CPU間通信異常	自動復帰
E11	○ ● ●		室内	室内PC板とオプション基板間の通信異常	停止
E18	○ ● ●		室内	室内PC板…室内親子間の定期通信ができない場合、同時ツイン親(主機)子(従機)間の通信ができない場合	自動復帰
E31	● ● ●		室外	IPDU-CDB間の通信が異常の場合	全停止
F01	○ ● ●	交互	室内	室内ユニット 熱交センサ (TCJ) 異常	自動復帰
F02	○ ● ●	交互	室内	室内ユニット 熱交センサ (TC) 異常	自動復帰
F04	○ ● ●	交互	室外	室外機 吐出温度センサ (TD) 異常	全停止
F06	○ ● ●	交互	室外	室外温度センサ (TE・TS) 異常	全停止
F07	○ ● ●	交互	室外	TLセンサ異常	全停止
F08	○ ● ●	交互	室外	室外機 外気温センサ異常	運転継続
F10	○ ● ●	交互	室内	室内ユニット 室温センサ (TA) 異常	自動復帰
F12	○ ● ●	交互	室外	TSセンサ異常	全停止
F13	○ ● ●	交互	室外	ヒートシンクセンサ異常	全停止
F15	○ ● ●	交互	室外	温度センサ誤接続	全停止
F29	○ ● ●	同時	室内	室内PC板…EEPROM異常の場合	自動復帰
F30	○ ● ●	同時	室内	人感センサから異常を検出した場合	運転継続
F31	○ ● ●	同時	室外	室外PC板…EEPROM異常の場合	全停止
H01	● ● ●		室外	電流検出回路…電源電圧…電流リリース制御でmin-Hz到達時、直流励磁以降の短絡電流 (Idc)検出など	全停止
H02	● ● ●		室外	コンプレッサ…コンプレッサのロックを検出した場合	全停止
H03	● ● ●		室外	電流検出回路…室外PC板…AC-CTで異常電流を検出した場合、欠相を検出した場合	全停止
H04	● ● ●		室外	ケースサーモ動作 (1)	全停止
H06	● ● ●		室外	電流…高圧スイッチ回路…室外PC板…Ps圧力センサ異常…低圧保護動作	全停止
L03	○ ● ●	同時	室内	室内アドレス誤設定…グループ内に親機が複数存在する場合	全停止
L07	○ ● ●	同時	室内	室内アドレス誤設定…個別室内ユニットにグループ接続室内ユニットが1台でもある場合	全停止
L08	○ ● ●	同時	室内	室内アドレス誤設定…室内アドレスグループ未設定の場合	全停止
L09	○ ● ●	同時	室内	室内ユニットの能力が未設定	全停止
L10	○ ● ●	同時	室外	サービス用室外PC板ジャンパー設定違いの場合	全停止
L20	○ ● ●	同時	室内	LAN系通信異常	自動復帰
L29	○ ● ●	同時	室外	その他室外機異常 1)IPDU-CDB間のMCU間通信が異常の場合 2)IGBTのヒートシンク部温度センサで異常温度を検出した場合	全停止
L30	○ ● ●	同時	室内	室内ユニットへの外部異常入力あり (インターロック)	全停止
L31	○ ● ●	同時	室外	電源相順…室外PC板…三相電源の相順が異常の場合	運転継続 (F-EOPF)

ワイヤードリコン表示部	ワイヤレスリモコン受信部表示ランプ	代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコンの状態	
表示	赤緑 点滅	点滅				
P01	● ● ●	交互	室内	室内ユニット 室内ファン異常	室内 室内ファンモータ…室内PC板…室内ACファンの異常(ファンモータサーマルリレー動作)を検出した場合	全停止
P03	○ ● ●	交互	室外	室外機 吐出温度異常	室外 吐出温度リリース制御にて異常を検出した場合	全停止
P04	○ ● ●	交互	室外	室外機 高圧系異常	室外 高圧スイッチ…IOLが動作した場合、TEによる高圧リリース制御で異常を検出した場合	全停止
P05	○ ● ●	交互	室外	欠相検出	室外 電源線の接続不良が考えられます。電源の欠相…電圧のチェックをしてください。	全停止
P07	○ ● ●	交互	室外	ヒートシンク過熱異常	室外 IGBTのヒートシンク部温度センサで異常温度を検出した場合	全停止
P10	● ● ●	交互	室内	室内ユニット 溢水検出	室内 ドレンパイプ…排水詰まり…フロートスイッチ回路…室内PC…排水系異常…フロートスイッチが動作した場合	全停止
P12	● ● ●	交互	室内	室内ユニット 室内ファン異常	室内 室内ファンモータ…室内DCファンの異常(過電流…ロックなど)を検出した場合	停止
P15	○ ● ●	交互	室外	ガスリーク検出	室外 配管および接続部でガスがリークしている可能性があるため、ガスリークのチェックをしてください。	全停止
P19	○ ● ●	交互	室外 (室内)	四方弁異常	室外 (室内) 四方弁チェック…室内温度センサ (TC・TCJ)チェック…暖房時室内熱交センサの温度低下により異常を検出した場合	全停止 (自動復帰)
P20	○ ● ●	交互	室外	高圧保護動作	室外 高圧保護	全停止
P22	○ ● ●	交互	室外	室外機 室外ファン異常	室外 室外ファンモータ…室外PC板…室外ファン駆動回路で異常(過電流…ロックなど)を検出した場合	全停止
P26	○ ● ●	交互	室外	室外機 インバータIdc動作	室外 IGBT…室外PC板…インバータ配線…コンプレッサ…コンプレッサ駆動回路素子 (G-Tr-IGBT)の短絡保護動作が働いた場合	全停止
P29	○ ● ●	交互	室外	室外機 位置検出異常	室外 室外PC板…高圧スイッチ…コンプレッサモータの位置検出異常を検出した場合	全停止
P31	○ ● ●	交互	室内	他の室内ユニット異常	室内 グループ内の他の室内機が警報中の場合 E03 / L07 / L03 / L08警報	自動復帰

○：点灯、●：点滅、●：消灯 ☆：このときは自動的に自動アドレス設定へ移行する。
交互：点滅LEDが2個あるときの点滅状態が交互 同時：点滅LEDが2個あるときの点滅状態が同時

9 室内ユニット設定確認

お客様に引き渡す前に、据え付けした室内ユニットのアドレスおよび設定を確認し、チェックシート（下表）に記入してください。チェックシートは4台分の記入ができます。据え付けしたシステムがグループ制御システムの場合は、他の室内ユニットに付属の据付説明書に分けてシステムごと記入して、ご使用ください。

お願い

据付後のメンテナンス時に必要となりますので、必ずご記入のうえお客様に本据付説明書をお渡しく下さい。

室内ユニット設定チェックシート

室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット		
形名	形名	形名									
室内ユニットのアドレスを確認してください。(確認方法は、「5. 応用制御」を参照してください。) *シングルシステムの場合は、アドレスは記入不要です。 (項目コード:系統[12]、室内[13]、グループ[14])											
系統	室内	グループ									
各種設定			各種設定			各種設定			各種設定		
室内ユニットの高天井設定を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、「6. 簡単機能設定」を参照してください。) *室内マイコン基板上のスイッチを切り換えた場合は自動的に設定が変更されています。											
高天井設定(項目コード[5d]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井②「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井③「0006」			高天井設定(項目コード[5d]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井②「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井③「0006」			高天井設定(項目コード[5d]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井②「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井③「0006」			高天井設定(項目コード[5d]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井②「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井③「0006」		
フィルターサイン点灯時間を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、「6. 簡単機能設定」を参照してください。)											
フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」		
暖房シフト値を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、「6. 簡単機能設定」を参照してください。)											
暖房シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃「0006」			暖房シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃「0006」			暖房シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃「0006」			暖房シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃「0006」		
風よけフラップ設定を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし(無効)]に、変更した場合は[有効]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、「6. 簡単機能設定」を参照してください。)											
風よけフラップ設定 (項目コード[45]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0002」			風よけフラップ設定 (項目コード[45]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0002」			風よけフラップ設定 (項目コード[45]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0002」			風よけフラップ設定 (項目コード[45]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0002」		
別売品組込み			別売品組込み			別売品組込み			別売品組込み		
下記別売品を組み込みましたか。組み込んだ場合は各[項目]に「レ」印を付けてください。 (組込時に設定切換が必要なものがあります。設定切換方法は、各別売品に付属の取付説明書をご覧ください。)											
パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])		
フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> テオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター <input type="checkbox"/> その他()			フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> テオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター <input type="checkbox"/> その他()			フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> テオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター <input type="checkbox"/> その他()			フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> テオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター <input type="checkbox"/> その他()		

10 フロン排出抑制法による冷媒充填量記載のお願い

- 機器の設置時にフロン類を充填した場合は、充填を行った者がフロン類の種類と充填量を表示することが、法的に義務付けられています。
- 設置工事時の追加冷媒量・総冷媒量および設置時に冷媒を充填した事業者名を室外機の追加冷媒記録欄に記入してください。
- 総冷媒量は、出荷時の冷媒量と設置時の追加冷媒量の合計値を記入してください。出荷時の冷媒量は室外機の「装置銘板」に記載された冷媒量です。
- R32/R410Aの地球温暖化係数(GWP)はそれぞれ「675/2090」です。
- 既に表示がなされている機器の改造を行い、その結果、表示内容に変更を生じた場合、フロン類の数量を再表示してください。



お願い

フロン排出抑制法に基づく点検実施のお願い

本製品を所有されているお客様は、フロン排出抑制法に基づく点検を実施してください。「点検記録簿」には、機器を設置したときから廃棄するときまでのすべての履歴を記載してください。費用など点検に関する詳細につきましては、お買い上げの販売店または東芝エアコン空調換気ご相談センターにお問い合わせください。「点検記録簿」に関しては、下記サイト内にありますので、ダウンロードしてご使用ください。

日本冷凍空調設備工業連合会のホームページ：<http://www.jarac.or.jp/>